



シェアサイクルの利用が急増

中間報告がまとまる

豊中市は、市域中南部における東西の移動を補強するため、令和元年(2019)11月1日からシェアサイクルの実証実験を実施しています。令和2年10月末まで(1年間)の結果をまとめました。

実証実験の概要

実施エリア：阪急岡町駅以南の市域中南部

設備：サイクルポート47箇所、電動自転車170台(令和2年11月2日増設含む)

利用方法：スマートフォン等を利用し、ポート位置・空き情報確認、予約、貸出し、返却および決済を行う。どのポートからでも貸出、返却が可能

料金：70円/15分 1,000円/12時間

実施体制：実験主体・豊中市、運営・OpenStreet株式会社、プラットフォーム・HELLO CYCLING

実験期間：令和元年11月1日～令和4年10月31日(3年間)

利用状況

1. サイクルポート数は、当初の27箇所から47箇所に、自転車台数は、70台から170台と、サービスは順調に拡大
2. 利用回数は、1,123回/月から5,032回/月と4.5倍に、利用者数は、390人から1,285人と3.3倍に増加
3. 30分以内の利用が72%、市内実験エリア内の移動が80%と短時間短距離の移動が主
4. ポート別では、①北急緑地公園駅西、②阪急服部天神駅北、③阪急曽根駅高架下等の駅周辺の利用が多く、駅を起終点とする移動が73%
5. 区間別では、①北急緑地公園駅西～服部緑地西口の利用が最も多く、動きからも、北急緑地公園駅、服部緑地及び曽根駅を結ぶ東西動線の移動が多い

アンケート結果

○調査は、1,000人に配信し、299人から回答、回答率は29.9%

1. 利用者は20代から50代の働く世代が9割以上を占め、男性が6割
2. 目的は、買物が48%と多く、通勤18%、レジャー・観光が17%と続く
3. 利用頻度は、月3回以下が73%で、シェアサイクルの利用により公共交通の利用頻度が減らない人は67%

(次ページに続く)





4. 利用し始めた理由は、便利 65%、早い 46%、近くにポートがある 46%、安い 45%の順
5. 新たに行くようになった場所は、店舗 46%、公園 20%、駅 14%の順で、利用後行動範囲が広がった人は 55%
6. 鉄道から乗り換えた人の 24%が、3密を避けるためと回答
7. システムや料金には満足しているが、ポート数には、多くの人 50%が不満を持っている
8. 困ったことは、返却場所がない 66%、バッテリーが少ない 36%、自転車がない 35%の順
9. ポートがほしい場所は、駅 76%、コンビニ 53%、商業施設 39%、公共施設 34%、公園 23%の順
10. 期待する効果としては、公共交通の機能補完 77%、地域の活性化 42%、放置自転車の低減 39%の順
11. ほぼすべての人 99.7%が、今後もシェアサイクルを利用したいと考え、積極的なポート設置 63%、北部への拡充 52%、メンテナンスの充実 34%を望んでいる

中間報告総括

□ 評価

1. 利用回数は順調に増加し、利用者数、1人当たりの利用回数も増加傾向にあり、引き続き増加が見込まれる。
2. 鉄道駅を起点又は終点とする移動は、73%と高く、南北の鉄道路線から東西への移動の補完の役割を果たしている。
3. 買物目的が5割近く、行動範囲が広がった人が5割を超えていることから、地域の活性化につながっていると考えられる。
4. 市外利用者は、5.0倍の800回と増加し、都市間連携に繋がっている。

□課題・方向性

1. 駅周辺ポートにおいて、満車・空車状態が見受けられ、利用を阻害している。ポートの増設や再配置の検討が必要である。
2. シェアサイクルは、公共交通を補完する移動手段と考えられるが、利用者の77%がこのことを期待しており、公的位置づけを明確にし、継続的な支援を行うことが望ましい。
3. 既存の公共交通に支障をきたすような課題はなく、ほぼすべての人が今後も利用したいと考え、半数以上の人々が北部への拡充を要望していることから、北部を含めた市全域へのエリア拡大と本格化に向け検討を進める。
4. 利用者は、20代から50代が中心であり、高齢者の利用促進が求められる。

【お問合せ先】

都市基盤部 交通政策課

担当：福山・松原・山本 TEL：06-6858-2435

